

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-220	小 学 校	生 活	生 活	1・2年生
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	生活 121・122	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下		

① 編修の基本方針

わたしたちをとりまく社会が大きく変化していく今、子どもたちがこの先の変化の中でより良い人生を歩み、よりよい社会を作りあげていく力を身につけていけるよう願っています。

この教科書では、活動を通し、自分の考えを持つとともに、それを他者に伝え協力して実行する能力や、自分と人・社会・自然などとのつながりに関心を持ち、大切にしようとする態度を育むよう構成しました。その中で、子どもたちの「もっと!」という思いや願いを大切にし、子どもの側に立つ発想をもとに、子どもたちの知的好奇心を満たすための様々な要素を取り入れるよう、以下のことに配慮しながら編集しました。

特色

1

みえる教科書

① 子どもの変容がみえる

●単元のストーリーを大切にし、単元ごとに主となるキャラクターを設定しました。はじめは期待や不安をもった子どもが、友達や周りに関わり合いながら変容し、成長していく様子を明確にしています。

② 活動の必然性がみえる

●子どもの願いや気持ちに沿った活動の流れを大切にしました。それぞれの活動に対して自分の願いを明確にすることで活動への必然性をもたせ、自分の願いに対して子ども自身が決め、自己決定していく場を設定しています。

特色

2

つながる教科書

① 活動と活動がつながる

●見開きをひとつの活動単位とし、願いをもち→主体的・対話的に活動し→伝え合い、振り返る構成としました。そして、見開き右下で次の課題へと期待をもってつないでいけるよう表現しています。

② 自己評価につながる

●活動に取り組んだ自分を記録によって表現し、自己評価につながるよう構成しました。見開きで示した活動に対して、カードで自分の気持ちも含めて表現していくとともに、それを友達が評価する形で価値づけるよう工夫しています。

特色

3

ひろがる教科書

① ふり返り、ひろがる

●単元末のまとめでは、多様な表現によって自己の成長を自覚できるよう設定しました。さらに、「もっと〇〇たい」では、これまでの活動を通じて得た自信(=生きる力)をもとに、さらなる課題に対するよう表現しています。

② 高い資料性で活動の補助や自宅学習へとひろがる

●「遊び方」「作り方」を示す場面では、多くの充実した資料を示すよう構成しました。またそれらをQRコードによって動画等で示すことによって、自宅での学習にも広がるよう工夫しています。

特色

1

子どもの変容がみえる
活動の必然性がみえる

教科書

① 単元のストーリーを大切にし、単元ごとに主となるキャラクターを設定した紙面構成。



↑「わたしのあさがお」前半の、あおいさんの変容。

●単元の主となるキャラクターのふきだしは、他のものとは形を明確に分けました。

上 p.26-27

●「わたしのあさがお」では、あおいさんの変容を追っています。



↑「作ってあそぼう うごくおもちゃ」の、そうたさんの変容。

point

期待や不安をもった子どもが、子ども同士の対話の中で、自分の考えを伝えたり修正したりしながら、変容し成長していく様子を明確に表現しています。

下 p.80-81

② 一つひとつの活動に「そうしたくなる」必然性を考えた展開。



上 p.28-29

- 「わたしのあさがお」では、〇〇な花をさかせたいという願いのもと、自分がまく種を選ぶ活動から入ります。
- 自分で選んだたねには、選んだなりの理由があります。これによって「わたしのあさがお」となり、以降の活動がより主体的なものとなります。
- 大事な「わたしのあさがお」の、鉢を置く場所も自分で決定します。「自分で決める」ことで、子ども自身が自己決定していく場を大切にしました。
- あさがおに支柱を立てる場面も、話し合いをもとに必然性をもって行う展開としました。



上 p.31



上 p.37



下 p.40-41

- 野菜を育てる場面でも同様です。地域に合った苗を自分の理由で選び、育てていきます。

point

「自分の学びは自分で作る」自分の願いに対して子ども自身が決める、自己決定の場面を大切にしています。

① 学びのつながりがわかる紙面構成。

- 活動内容
「何をするのか」
- ↓
- 子どもの欲求や
願い
- ↓
- 活動-1
- ↓
- 活動に必要な
資料



- 活動-2
- ↓
- 子ども同士の学び合いの
場面
- ↓
- 試行・改善の繰り返し
思考力、判断力の基礎
- ↓
- カードによる気付きの表現
- 友達による評価
- ↓
- 次の学びへのつながり・期待

下 p.84-85

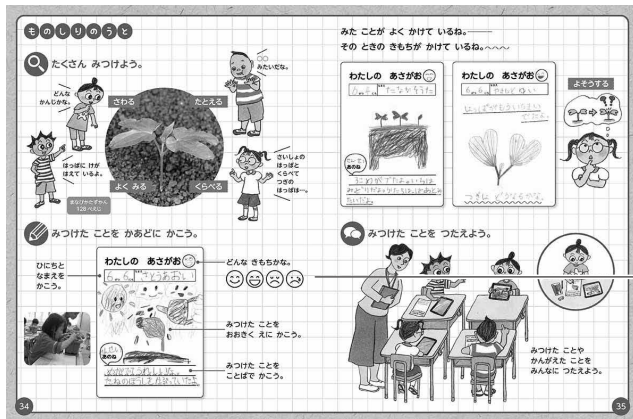


point

活動の連続性を重視し、見開き右下で、活動と次の活動をつなぐよう、表現しています。

↑下「生きものと友だち」の「次の学びへのつながり」部分
主に「〇〇したい」という表現で、活動と活動をつなげていきます。

② 記録による活動の振り返り、評価。



- 巻末資料の他に、上巻では本文中の p.34-35、下巻では p.44-45 にも、カードのかきかたをのせています。
- 特に上巻 p.34-35 では、「みる」「さわる」「たとえる」「くらべる」「よそうする」といった、対象に働きかけるポイントを示しています。

どんな きもちかな。



その時の気持ちを顔マークで表現します。

上 p.34-35



←上「わたしのあさがお」での記録。
友達による評価によって、記録をかく視点を示すとともに、共に学び合う姿勢を表現しています。

point

活動に取り組んだ自分を、気持ちも含めて振り返り表現し、自己評価につながるよう構成しています。

特色

3

ふり返り、ひろがる
高い資料性で学びがひろがる

教科書

① 自己の成長を自覚し、「またがんばろう」と思うことのできる子どもを育てる教科書。



下 p.56-57

● 下「わたしたちの野菜いばたけ」では、工作物や新聞作りなど、多様な表現でまとめを示すとともに、これまでの記録をもとにした、シンプルかつ効果的なまとめで、「できるようになった自分」をふり返られるよう工夫しています。

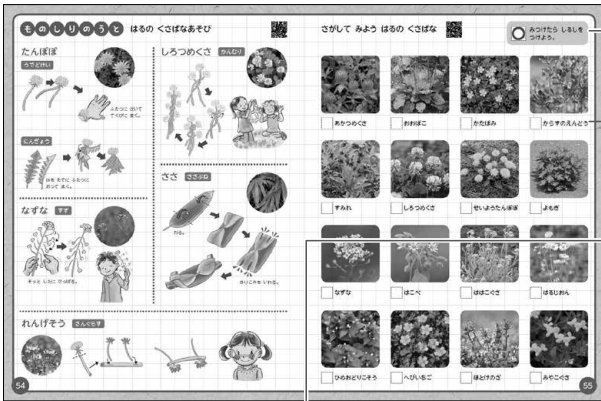
point ・記録をもとにしたふり返りを行うことで、単元を通して「がんばった自分」に気付かせます。
・さらなる課題に対することで、より深い学びを実現します。



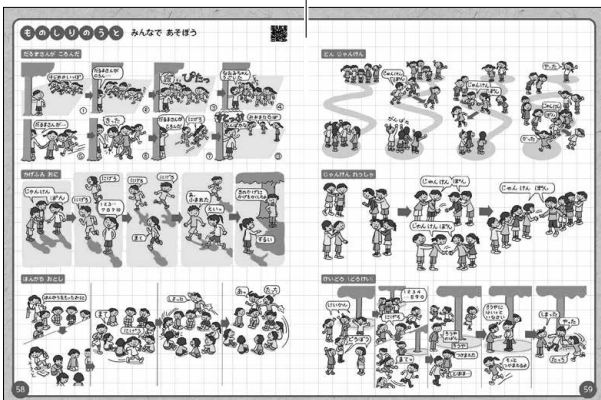
下 p.110-111

● 単元最後には「もっと〇〇したい」を設け、これまでの活動を通じて得た自信（＝生きる力）をもとに、さらなる課題に対するよう表現しています。
下「わたしたんけん」では、「これからのわたし」について作文を書く活動を設定しました。

② より豊かな活動を保証する高い資料性。



上 p.54-55



上 p.58-59

- 生活科教科書の大切な機能の一つである資料性を高め、さらにQRコードを用いて強化しました。
- 地域性にも対応するよう、QRコードを用いて示しました。（上 p.55 に対する「沖縄 春の花」、下 p.60-61 に対する「沖縄 初夏の生きもの」等）
- 作り方や遊び方については多様な例を掲載し、QRコードを用いてさらに強化しました。
- 夏休み中の活動についても、資料で示しました。



上 p.40-41

② 対照表

教育基本法第2条	意を用いた点や特色	箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●主体的に知識や教養を身に付けたり真理を探究できるよう、内容ごとの大単元構成にし、ねらいを持って学習できるようにした。 ●学習展開にあたっては、子どもの情動的な側面を丁寧に描き、豊かな情操と道徳心を養えるよう配慮した。 	<p>上巻「あそび」単元以外を大単元構成にしたこと。</p> <p>各単元の展開において配慮した。</p>
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●工作物や活動を、工夫し改善していく活動を採り入れ、創造性や自主性が育つよう配慮した。 ●上巻「ありがとうがいっぱい」では家庭の仕事を通して、下巻「まちたんけん」では、働く人々との交流を通して、職業や生活との関連を学ぶことができるよう配慮した。 	<p>上巻 88-93、108-109 頁、下巻 80-95 頁</p> <p>上巻 94-101、下巻 2-37 頁</p>
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●各単元の展開においては、友達を始めとして他者との関わりを重視し、自他の敬愛と協力を重んずる態度が身に付くよう配慮した。 	<p>各単元の展開において配慮した。</p>
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●栽培単元及び飼育単元の活動を特に重視し、継続的に生き物と関わる活動を通して、生命や自然を尊重し、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。 	<p>上巻 26-47、50-55、70-81、82-87 頁、下巻 38-59、60-77 頁</p>
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ●上巻で伝統的な遊びを取り入れたたり、下巻で各地の伝統的な行事を紹介したりして、我が国の伝統と文化に愛着を持てるよう配慮した。 ●写真やキャラクターの中に外国の子どもを入れるよう配慮した。 ●まちのイラストの中に外国の方が暮らしている様子や、多国籍表示の看板、日本でも行われている海外の行事を取り入れた。 	<p>上巻 65、102-103、114-115 頁、下巻 2-3、18-21、36-37、43、59、78-79、96-97 頁</p> <p>上下巻において配慮した。</p> <p>下巻 15、21、37 頁</p>

③ 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○ユニバーサルデザインへの配慮

- 全面的に UD フォントを使用することで、これまで以上に読みやすく、すべての児童が理解しやすい文字になるよう配慮しました。
- カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮しました。

○「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にすることの育成

- 自分をとりまく友達や支えてくれている大人達へ、感謝の気持ちをもつよう「ありがとう」という言葉を紙面に示しました。(上 p.3, 20, 94-95, 98, 99, 100, 121 下 p.24, 30, 31, 72, 103, 108-109)
- (上 p.44,45 自分のアサガオに対して)

○ICT 機器活用への配慮

- タブレット端末を身近な道具として効果的に活用できるよう、上巻ではカメラやビデオ機能を中心に扱い、写真をもとに記録用紙にかいたり、話し合いに使ったりと身近な道具としての活用を示しました。また、下巻「まちたんけん」では、写真や動画を撮るときのマナーや(下 p.8, 25)、情報検索の時の注意(下 p.125)も取り上げています。
- QR コードによる資料については、QR コードを表示し、デジタルコンテンツ等があることを視覚的に容易に判別できるように配慮しました。



○子どもの健康や安全への配慮

- 上下巻巻頭には【感染症対策について】を設けています。
- うがい手洗いについては、いろいろな場面でマークを置いて注意を促しています。
- 子どもの安全には特に意をはらっています。就学時の指導はもちろんのこと(上 p.10-11)、夏期の注意(上 p.62, 66-67, 下 p.78-79)や冬期の注意(上 p.102, 下 p.96)も取り上げています。また、巻末資料でも「あんぜんのページ」を設けています(上 p.136, 下 p.126-128)。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当時間数)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-220	小学校	生活	生活	1・2年生
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	生活 121・122	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下		

1. 編修上特に意を用いた特色

生活科の目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていく」ことを確実に達成するため、教科書の改善点を、次の3点としました。

- ①子どもが中心となって、見通しをもって自己決定をしながら願いを達成していく中で、めざす資質・能力が自然と付いてくる構成とする。
- ②他者との関わりの中で変容でき、自分の成長を自覚できるような構成とする。
- ③入学当初から小学校の生活へと、円滑に接続できるような構成とする。

また、生活科の学習目標を達成するために、生活科の内容を「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理しました。各単元においては、学習のねらいをはっきりさせながら、継続的な活動を仕組めるようにし、子どもたちが、自身の成長を自ら実感できるように配慮しました。

上巻 (基本的に第一学年として設定)

はじまるよ
しょうがっ
こう

小学校の生活への円滑な接続として、上巻巻頭に「はじまるよしょうがっこう」を設けました。入門期は、上巻 p.1-11 と、「がっこうたんけん」の前半 p.12-19 を設定しています。

ここではこれから紙面をリードしていく4人のキャラクターと、いつも見守ってくれている先生が登場します。

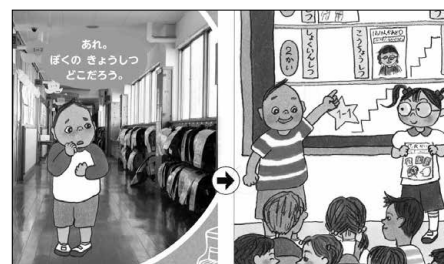


「探検領域」



がっこう
たんけん

「がっこうたんけん」は、自分の教室がわからなくなったことのあるそなたさんがメインキャラクターとなります。どこからでも自分の教室に帰れるよう校内を把握させるとともに、施設の役割等に関する疑問点になるべく多く気付かせることを主軸としました。また、第二段階として、そこで働く人に着目させ、仕事の内容を知り、それが自分たちの学校生活をより安全・快適で豊かなものにしてあげていることに気付くことで、気付きの質が高まるように配慮しました。



「栽培領域」



わたしの
あさがお

この単元は、植物栽培に少し自信が無いあおいさんがメインキャラクターとなります。思い悩み、はげまし合いながらアサガオを育てていく様子を連続的に表現することで、教科書の子どもたちと共に成長していく自分に気付かせる構成としました。

この単元では「自分の鉢で」「種を選んで」「鉢の置き場所を決めて」等、自己決定の場면을重視し構成しました。これは子どもが自立し生活を豊かにすることにつながります。さらに、困った時は友達と知恵を出し合って問題を解決していく場面を、ふり返りでは、これまでの記録からアサガオの成長をふり返るとともに、自己の成長をふり返り、半年間育ててきたアサガオに感謝する場면을設けました。

また、「たとえる」「くらべる」「よそうする」といった観察の視点や記録のしかた、タブレット端末を扱う場面も登場します。



「遊び領域」



「あそびにいろいろ」は、大きく春～梅雨・夏と、秋、冬の三つに分けました。春は入門期の意味合いが強く、友達をつくりながら工夫して遊ぶ中で公共施設の使い方も学べるよう構成しました。

夏は、水や土、しゃぼん玉で遊ぶ中で、以降の生活科や理科に通じる原体験をつくることを主眼としました。

秋は、まず体全体で秋を感じ、次にそこで見つけたもので遊ぶ活動を通して、考え、工夫する場面を設定しました。

冬は雪の多い地域とそうでない地域との活動に分けました。風の活動では友達と比較・工夫するといった場面も設定し、さらに「もっとあそびたいな」では、高齢者との交流を企画し、昔遊びの良さや楽しさを、ふれあいを通して気付くことができるよう構成しました。



「飼育領域」



この単元は、モルモット等の「温かい生き物」とのふれあいと、学校の周りにいる虫たちの短期飼育で構成しました。動物とふれあうとき、相手が何を食べるのか、どんな場所を好むのか、どんなことをすれば喜ぶのかなどを探りながら観察する様子や、小動物との現実的な距離と心の距離を徐々に縮めていく様子を示すことで、自分達の思い通りにはならず相手を理解することでその距離が縮まることを気付くことができるよう構成しました。

モルモット等の飼育に関しては、可能であれば行う扱いとし、「もっとやってみたいな」で示しました。



家族・ 成長領域



「家の人はどんな仕事をしているのか」、「自分にはどんなことができるのか」を課題とした活動に取り組み、より成長した自分に自信をもち、またがんばろうという気持ちを抱かせるよう構成しました。家庭での活動が主となる単元ですが、学校での授業も見えるよう配慮しました。そして最後は「ありがとう」の気持ちを持つことを忘れないよう構成しました。

「もうすぐ2年生」では、1年間をふり返り、できるようになった自分を認めるとともに、新1年生を迎えるにあたって、何をしてあげればよいかを考え、活動するよう構成しました。



下巻 (第二学年として設定)

「探検領域」



まちを探検する活動を大きく2つに分けて設定しました。

1回目の「まちたんけん」では、自分たちが知っている町のふしぎやすてきを発表し、学校を中心とした大まかな位置関係がわかるように地図を使った活動を導入として設定しました。ここでは、様々な活動に適用できる、「計画」→「実行」→「ふり返り」→…といった学び方が明確にわかるような展開としました。計画の段階では、安全に関することも確認できるように配慮し、「実行」の場面では、商店や施設、民家や農家、公園、身近な標識といった様々なものを、五感を総動員して、なるべく多くの発見があるように構成しました。

2回目の「あの人に会いたいな」ではまちの人々に注目させ、人との交流を企画します。「実行」の場面では、聞きたいことを用意しているが、話をしているうちに、また新たな疑問がわいたり、感動して握手を求めたり、自然に気付きの質が高まっていく様子を表現しました。ふり返り場面では、ポスター等にまとめながらも新たな疑問がわき、また聞きに行きたいという知的欲求を喚起させるとともに、自分達のまちを愛し大切にしようと考えられるよう構成しました。



「栽培領域」



わたしたちの野さいばたけ

この単元は、りんたろうさんがメインキャラクターとなります。
 1年生でのアサガオの栽培を経て、「前が活かせる」「前とは違う」という学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げました。野菜作りではまず育てる野菜の下調べと、畑の土作りから始め、育てる畑にも着目できるようにしました。個々、またグループでの栽培活動を進めていくうちに、様々な作業や問題への直面とその解決を表現し、困難を乗り越えるたくましい心も育つように配慮しました。
 ふり回り場面では、野菜を収穫した喜びとともに、その成功体験やまた一つ成長した自分をふり返って、秋からも自信を持って野さいを育てていけるよう構成しました。



「飼育領域」



生きものと友だち

この単元では、身近に見られる生きものをある程度の期間飼育する構成としました。生きものを飼育するときは、捕まえたときそれらがいた環境を思い出し、そこと同じような環境をつくる必要があることに気付かせます。これは、地域の自然を愛し、環境への見方・考え方へとつながることや、他の立場や状況を考え、相手を理解することでその距離が縮まることに気付かせることをねらいとしています。また観察するときは、「くらべる」「たとえる」「数える」といった科学的な見方ができるように配慮しました。
 ふり回りとなる、これまでの記録をもとにまとめたりする場面では、生きもののまとめだけではなく、それを通して成長した自分についてもまとめさせ、生物飼育を通して、理科的な学びにとどまらせるのではなく、自分の成長をみとれるよう工夫しました。
 最後に「これからも飼育続けるかどうか」を議論する場面を取り上げ、生命に対する責任についても言及しました。



「遊び領域」



作ってあそぼうごくおもちゃ

この単元は、工作に少し苦手意識のあるそうたさんがメインキャラクターとなります。おもちゃ作りの活動を通して、「計画」→「実行」→「ふり回り」→「改善」→「実行」→「ふり回り」といった、気付きの質が高められる学習のサイクルを明確に示しました。
 まずいろいろな動かし方に着目させ、動くおもちゃを作ろうという意欲喚起に配慮しました(82-83ページ)。次に、子どもたちがそれぞれの動くおもちゃを作っていく中で、「まっすぐ走らせたい」等の願い(改善する観点)を明確にしなが、次のステップに進める展開としました(85ページ)。
 そして、改善されたそれぞれのおもちゃを持ちより、他の子どもと遊び、さらに、遊び方の工夫も含めて「もっと面白くしたい」という気持ちをもたせ(92-93ページ)、改良し、工夫し、さらには1年生を招待して遊んでもらう場面を設けました(94-95ページ)。これらの活動を通して、動くおもちゃ作りが、理科的な体験にとどまらず、試行錯誤を繰り返しながら集団の中で自分の学びを作り、今後の人生の中で大切なものとなりうるよう、配慮しました。



「家族・成長領域」



わたしたんけん

この単元は、子ども自身の成長、共に学び成長した友達、それを支えている大人という構造を、現在から過去そして未来という時間軸の中で描けるよう構成しました。それが「わたしたんけん」であり、最終的にまとめあげる1枚の記録です。
 まず、2年になってからできるようになった自分を評価する場面を設けました(100-101ページ)。次に、友達に自分の「すてき」を発見してもらおう活動でカードを交換します。この段階で既に気付かなかった自分の良い所を知り、新たな学年に向かって目標が立てられるよう構成しました(102-103ページ)。
 さらに1年生の頃や入学前の自分について、インタビューカードを作り、家の人や学校の先生、幼稚園・保育園の先生に聞いていく中



で、大人達に支えられていた自分に気付くよう構成しました。この活動については、子どもたち個々の家庭状況の多様化に配慮した扱いとしました(104-105ページ)。

そして最後にこれらを1枚にまとめ、発表し、この活動のふり返しを行い、単元末の「もっとかがやきたい」で、これからの自分についての作文を書きます。

この単元は、子どもたちがこれからももっとかがやいてくれることを願って、2年間にわたった生活科の集大成としてのまとめ活動として、構成しました。



上下巻 共通

「巻末資料」



学び方
図かん

上下巻とも、巻末には「学び方図かん」を設けました。各単元本文内で参照表示を設け、子どもたちが必要に応じて活動の参考にできるよう配慮しました。上下巻それぞれの内容を以下に示します。

【上巻】

- **こんなとき どうしよう** (p.126-127)
…上巻各単元で特に考えられる項目を示しました。
- **みる** (p.128) … 視覚的なものだけでなく、五感を通じて確かめることや、比べたりたとえたりすることについてもふれています。
- **はなす** (p.129) … どのようにしたら自分の考えをうまく相手に伝えられるか、示しています。
- **きく** (p.130) … 上手な聞き方について、示しています。
- **かんがえる** (p.131) … 「〇〇ならばきっと…」といった予想について示しています。
- **かく** (p.132-123) … 記録カードや作文のかき方を示しています。
- **はっぴょうする** (p.134) … 色々な発表の方法について、示しています。
- **つかう** (p.135) … タブレット端末やデジタルカメラの使い方について紹介しています。
- **あんぜんのぺえじ** (p.136) … 地震や火事などのときの対処法について示しています。

【下巻】

- **こんなとき どうしよう** (p.114-115)
…下巻各単元で特に考えられる項目を示しました。
- **見る** (p.116) … 視覚的なものだけでなく、五感を通じて確かめることや、比べたりたとえたりすることについてもふれています。
- **話す** (p.117) … どのようにしたら自分の考えをうまく相手に伝えられるか、示しています。
- **聞く** (p.118) … 上手な聞き方について、示しています。
- **考える** (p.119) … 「〇〇だから(すれば)、きっと…」といった予想について示しています。
- **書く** (p.120-122) … 記録カードや作文のかき方、新聞のまとめ方、手紙の書き方について示しています。
- **はっぴょうする** (p.123) … 色々な発表の方法について、示しています。
- **つかう** (p.124-125) … 道具の使い方、タブレット端末やデジタルカメラの使い方や、インターネットでの調べ方について紹介しています。
- **あんぜんのページ** (p.126-128) … 登下校の安全、手洗い、地震や火事など、災害時の対処法について示しています。

② 学習指導要領との対照表

上巻（基本的に第一学年として設定）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
はじまるよ しょうがっこう	(1) 学校と生活 (6) 自然や物を使った遊び	・はじまるよ しょうがっこう 1-11 頁 ・はじまるよ しょうがっこう 6 頁	4
がっこうたんけん	(1) 学校と生活 (2) 家庭と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 12-25 頁 ・ 24 頁 ・ 15, 18-19, 22-25 頁	10
わたしの あさがお	(2) 家庭と生活 (6) 自然や物を使った遊び (7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・ 40-41 頁 ・ 41, 45, 47 頁 ・ 26-47 頁 ・ 27-45 頁 ・ 44-45 頁	21
あそびに いこうよ ・あそびに いこうよ ・あきを たのしもう ・ふゆを たのしもう	(3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 56-57, 65, 66-67, 102-103, 116-117 頁 ・ 52, 56-57, 84 頁 ・ 48-69, 82-93, 102-117 頁 ・ 52-64, 66-69, 82-93, 114-115 頁 ・ 53, 57, 61, 63, 65, 85, 89, 93, 109, 111, 116-117 頁	33
生きもの 大すき むし 大すき	(7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 70-81 頁 ・ 73, 74-75, 81 頁	12
ありがとうが いっぱい	(2) 家庭と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・ 94-101 頁 ・ 95, 97, 99, 100 頁 ・ 100-101 頁	11
もうすぐ 2 年生	(1) 学校と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・ 118-124 頁 ・ 118-124 頁 ・ 118-121 頁	11
		計	102

下巻（基本的に第二学年として設定）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
まちたんけん あの 人に 会いたいな	(3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 2-37 頁 ・ 2-3, 9, 14-21, 33-37 頁 ・ 2-3, 18-21, 36-37 頁 ・ 6-7, 12-13, 28-32, 34 頁	27
わたしたちの 野さいばたけ	(3) 地域と生活 (7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 40-41, 43, 59 頁 ・ 38-59 頁 ・ 40-41, 43-45, 49, 51, 55-57 頁	27
生きものと 友だち	(4) 公共物や公共施設の利用 (7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・ 75 頁 ・ 60-75 頁 ・ 63, 65, 69, 71, 72-74 頁 ・ 73 頁	9
作って あそぼう うごく おもちゃ	(6) 自然や物を使った遊び (8) 生活や出来事の伝え合い	・ 80-95 頁 ・ 83, 85, 90-95 頁	22
わたしたんけん	(2) 家庭と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・ 100-101, 104-111 頁 ・ 98-111 頁 ・ 98-111 頁	20
		計	105

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-220	小 学 校	生 活	生 活	1・2年生
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	生活 121・122	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取り扱いに示す事項	ページ数
なし	なし	なし	なし	なし
合計				0